

## 2020年度 江戸川大学 自己点検・評価委員会 活動記録

自己点検・評価委員会は、2017年3月大学経営会議に答申「小規模私立大学における教育改革：グローバル化、多様化する社会で生き抜ける人材育成に向けての質保証」を提出した。本委員会では、答申の中から大学経営会議が抜粋した改善を要する重要項目に関して、関係部署へ「改善のための進捗状況、及び活動記録」の提出を回答シートへの記入という形で依頼している。回収された回答シートの内容は、本委員会で精査し、必要がある場合は、再度当該部署へ修正の依頼を行っている。これにより、本委員会を中心にPDCAサイクルでのチェック体制が機能しており、結果、「内部質保証の向上」に繋がっている。

2020年度の本委員会の活動は、上記に加え、新型コロナウイルス禍における大学の危機管理体制に関しても、大学経営会議に改善をお願いした。また、3回目の認証評価受審に備える「認証評価対応ワーキンググループ(WG)」の活動内容も、折に触れて本委員会のメンバーと共有しており、助言も受けている。

### 2020年4月

#### 報告事項

#### 1 自己点検・評価委員会の役割について

委員長より今年度より新委員となった2名の教員の紹介後に、本委員会の役割、位置づけについての説明と今年度に申請予定の認証評価について、概要の説明が行われた。

#### 2 2019年度版の自己点検評価報告書について

① 認証評価受審の前年度に作成することが恒例となっている「自己点検評価報告書」について、昨年度までの委員による執筆原稿を委員長が取りまとめたものについて、各委員より修正箇所についての指摘があり、校正対応することとなった。例として、TA(Teaching Assistant)については、SA(Student Assistant)と使い分けをすることとした。また、巻頭言については「である調」への変更を行うこととなった。

完成した原稿については、学科に関連する部分を抽出して各学科長へ、全体の確認を学長および副学長へ依頼する旨の提案が委員長よりあり承認された。

② 報告書が完成したあとの活動については、例年実施している「学科特有の問題、改善、試み」についての調査を行う旨の方針が示された。昨年度は、評価項目を自由設定としたことで、評価のバラツキが目立つことになった点を踏まえ、今年は項目を委員会で指定して、学科長等に評価を入力してもらう方式としたいとの説明があった。

加えて、国際化への対応、コロナ対策などに点についても本委員会として調査するこ

とについて検討することになった。

## 2020年6月

### 1 報告事項

昨年度の委員にて取りまとめた『2019年度の自己点検評価報告書』については、5月26日に学長、副学長に提出し、公開許可の回答を待っている状況である旨の報告があった。

### 2 審議事項

#### ① 改善依頼事項の実施について（2019年度用）

委員長より、これまで2回実施してきた「改善依頼事項の報告」に関して、学科により評価項目にバラツキが多く、学部としての評価や全体としての評価がしづらいという問題点および学科長の交代にどのように対応すべきかについて提起があり、「2019年度活動報告」にてどのように改善すべきか意見交換をすることとなった。

#### ② 2019年度用の回答シート作成に関して、委員より、以下の提案がなされた。

◎学科独自の回答シートと全学統一回答シートの2種類にまとめて実施してはどうか。

統一項目は、5項目程度に絞り込みしてあまり負担にならないようにしてはどうか。

◎学科長に依頼する際に、どの程度までの回答を期待しているというノルマ的なものがわかるといいのではないか。例えば、最大のページ（評価シート数）。そうすることで学科間の回答内容のバラツキが抑えられる。

◎学科長の交代については後任者に引き継ぎをしてもらうことで対応していただくことでよいのではないか。

◎回収した活動報告についてはPDCAがされているという形をとるためにも、自己点検による評価作業を行った後に、再度学科等から改善点の提案をいただくなどをお願いしてはどうか。

◎対応内容の項目は、大きなテーマにまとめてはどうか。前回は、学科によって大きなテーマでまとめている場合と細かな項目にわけて、1シートにまとめている場合が混在していた。

以上の意見を元に、2019年度用の回答シート案を作成した上で、委員長が各委員の意見を伺い、学長の承認を得て評価作業の学科への依頼を行いたい旨の説明があり、承諾された。

### 3 その他

委員より、今年度の自己点検においては、コロナの影響を大学としてどのように取り組み、乗り越えたのかを調査するべきではないかとの意見が出され、今年度の活動にて対応していくことが確認された。

## 2020年7月

### 1 報告事項

#### (1) 自己点検評価報告書について

委員長より資料に基づき説明があった。学長、副学長の確認・許可の後、Web に公開している旨の説明があった。今後、誤字脱字等の洗い出しが終わった頃に、印刷を30部ほどする予定であるとの説明があった。

#### (2) その他

2019年度の自己点検評価報告書に記載されている課題・改善点などは認証評価対応WGにて検証し、可能なものについては目標として改善できるように手配する予定であることの報告があった。

### 2 審議事項

#### (1) 依頼文の内容に関して

学長名で発信する「答申」に基づく改善依頼事項および活動報告提出について委員長より説明があり、文面の確認を行い、表現を一部修正することにした。活動報告については、昨年度と同じ部門について回答シートの配布を考えているとの説明があった。

委員から以下の意見が出された。

◎2020年度のコロナ禍での大学の対応については、点検を行い、平常化したあとの大学でもオンライン授業の実施を行うかどうかなど、これからの大学のあり方を調査してはどうか。

◎今年度行われたオンライン授業については、学科によっては学生の意見などがアンケート調査を通してある程度把握しているが、各教員がどのように取り組みをしたのか、教員の立場からのオンライン授業のメリット、デメリットも含めて、学生指導上での工夫点などについて知りたい。

委員長より、今回行う昨年度の活動報告の回収とは別に、後日、学科長宛にコロナ対策に関連する回答シートを作成して回答を得るようにしてみたいとの回答があった。

なお、回答シートへの記入時に参考になるように、答申のダイジェスト、認証評価の手引き、昨年の回答シートを添付して送ることとなった。新任者だけでなく、回答者全員に添付することとした。

委員より「副学長の役割」に関する回答シートの必要性について発言があった。

#### (2) 配布日について

学長と相談して決定したいが、学科会議開催前には配布できるようにしたい。

(3) 回答締切日について

委員長から回答配布日に応じて決定する。9月の委員会時には回答を確認できるようにしたいとの説明があった。

(4) 回答シートの設問について

委員長より、前回の委員会での審議を元にして、回答シートの設問案を作ったのでチェックしてほしいと説明があり、対応内容の項目も含めて、以下のような意見が出た。

- ◎「多様な学生への学習の仕組みづくり」とは、どのような学生を対象としているのか分かりづらいとの発言があり、回答シート内に（注）を入れて説明するようにすることとなった。
- ◎「学科間の成績評価の格差是正」について、学部長によって調整できる範囲を超えているため、教務部長への設問だけとした方が良いとの発言があり、学部長には同じ内容について設問するようにすることとなった。
- ◎教務部長への回答シートの対応内容の項目について、「開始終了時間の厳守あるいは授業時間の確保など」の表現にしてはどうか。
- ◎2020年度に関しては、オンライン授業の場合、授業の質の担保を主目的として運営しており、オンライン授業の手法によっては、授業時間が100分必ずびったりで実施という形態ではない。設問を具体的にすぎるとよりも、単位の実質化や授業の質の担保ができていくかどうかを問うようにした方がよいのではないか。
- ◎基礎教養の回答シートについては、現在タイムリーに進捗させているテーマである。
- ◎海外研修についても、設問が具体的すぎるとの意見が多くでた。「多様な学生への対応」ということで大きくくくってはとの意見があった。「成績評価の事前学習等の比重を問う設問」についても、「成績評価の厳格化」ということで指摘すべきではないかとの意見があった。

## 2020年9月

### 1 報告事項

- (1) 6 学科長、国際交流センター委員長へお願いしていた「2019年度の答申、活動記録」の回答シート回収状況の確認
- (2) 2 学部長へ回答依頼  
本日の審議を経て学部長への依頼を行う旨の報告があった。  
(各3学科の回答シートを各学部長へ添付する)

### (3) 今後の回答依頼

委員長より、下記の方へ回答依頼を実施する予定で、依頼する回答シート案を委員長にて作成のあと、MLにて回付し確認後に依頼することとする旨の報告があった。

依頼先：

学生部長、教務部長、IR委員長、基礎・教養教育センター長、学長、副学長、法人本部、就職課長（活動報告）、学術情報課長（図書館関連の活動報告）、法人本部

## 2 審議事項

(1) 回収された6学科と国際交流センターの回答シートの内容に関して、各委員からの意見、評価に関して、

各学科より提出のあったシートについて、学科委員より補足説明をしていただき内容について審議をした。委員から定員管理については、学生の質確保という観点から本委員会から経営サイドへ意見を出してもよいのではないかとの意見が出た。

今回の学科長からの回答については、いくつかの学科長に対して、追加記載をお願いすることとした。

(2) 江戸川大学における新型コロナウイルスへの対応

委員から以下の意見が出た。

◎コロナ対応としては本学の学生への注意喚起や授業関係の連絡が、他大学と比較して2週間ほど遅い印象がある。

◎コロナ対策室会議には教員は副学長（教務部長）と学生部長の2名しか参加しておらず、学科における教育上の意見が届きにくい。今後は各学科1名を対策室メンバーへ追加して学科の事情を吸い上げできる体制とすべき。

◎方針決定プロセスの可視化をしてほしい、教員や学生へアンケートを実施するなどしてコロナ対策への意見を伝える場を作ってほしい。

◎決定事項のみの通知ではなく、決定理由なども合わせて出してほしい。

自己点検・評価委員会からコロナ対策室会議への要望を文書として、学長、副学長へ提出することとした。

(3) その他

2学科の委員より、オンライン授業等に関する学科学生のアンケート調査結果について報告があった。学科、学年の特性により、オンライン授業のメリット・デメリットがあること、科目の特性に応じて授業方法の工夫が必要であることなどの報告があった。

## 2020年10月

### 1 報告事項

- (1) 2019年度の答申、活動記録の回答シートの回収状況の確認
- (2) コロナ対策室会議への学科長、基礎・教養教育センター長参加の件  
9月13日(日)、学長と副学長に「新型コロナウイルスへの対応についてお願い」を提出し、口頭でも依頼した結果、「両学部長、6学科長、基礎・教養教育センター長」のコロナ対策室会議への参加が決まった。
- (3) コロナ対策室会議における方針決定プロセス、及び決定理由の可視化、及び個々の学生、教職員からのコロナ対策への意見の汲み取り(方法)に関しては、現在まで回答をいただいている。
- (4) 「教員は学科長を通して、職員は各課長を通して意見の汲み取りを行い、学生については現場担当者の感想やアンケート調査などをおして実現する方向である」との現状のコロナ対策室での状況について報告があった。

## 2 審議事項

- (1) 前回の会議の後に回収された回答シートの内容に関して、各委員からの意見、評価

(学長シート)

「経営の諸問題への対応」に関して

- ◎大学経営会議による学生の意見の吸い上げではなく、他部署での調査結果の確認などに変更してはどうか。
- ◎学長室会議の設置などについては回答シートに使いしてはどうか。学長サポートスタッフの項目を変更してはどうか。
- ◎対応内容8の「SD実施、人材の育成」を削除し、対応内容4を「教職員の配置・職能開発等」としてまとめてはどうか。
- ◎認証評価での独自基準に即した項目があってもよいのではないか。他大学の例では、「教職員の連携、教職協働」を独自基準としているところもある。

「学長のリーダーシップ」に関して

- ◎カリキュラムに関する自己評価がAになっていることは違和感がある。4年間の成果を見極めてから「A」になるはず。現段階では、計画を立てて実行している段階なので「B」になるはず。
- ◎対応内容の項目に、各学科へのカリキュラム改訂の指示について追加してはどうか。

(国際交流センターの回答シート)

- ◎学長からの回答シートと同様に、自己評価は「A」ではなく「B」とすべきではないか。  
「A」は PDCA サイクル的なものが見えない表になってしまうのではないか。もし、完全に達成されているのであれば、別の項目にすべきと考える。発展的に向上していく目標を設定すべきではないか。学生の能力向上がわかるような項目がよいのではないか。
- ◎「A」の評価について、枠組みが準備できたら達成という使い方をしていないか。少なくとも行った実績がなければ「A」にはならないのではないか。少なくともカリキュラムの枠組みができてから 4 年経過して就職先までに踏まえて評価ができると思う。よって、「C」や「B」という評価にすべきではないか。
- ◎「問題をかかえる学生への対応」という評価が「A」になっているが、対応しましたよということではなく、問題提起と解決という形になるように修正した方がよい。

(図書館シート)

- ◎問題点の概要について、「館長の独断」云々という表現はカットしてもよいのではないか。
- ◎国際交流センターの課題項目でも同様だが、場所や制度などハードを作ることが課題でもあるが、制度ができたあとの活用についても課題にもなる。そのあたりの点検項目の書き方を工夫してはどうか。

(2) 江戸川大学における新型コロナウイルスへの対応

本委員会による「新型コロナウイルスへの対応に対する政策決定プロセスの検証」

委員へ以下が紹介された。

- ①文科省のコロナ対策好事例
- ②東大のコロナ対策の事例（コロナ対策としての心理面の対応について）
- ③本学が 8 月現在までに行われたコロナ対策の物品購入の一覧
- ④本学の学生相談室でのオンライン相談
- ⑤学生サポート（PC トラブルはヘルプデスク、学修の遅れなどは基礎教養センターにて、学修相談は学生 SA や補習教員がオンラインと対面で応じている）

本学のコロナ対策の特徴的なものがあるか話し合われた。

- ◎学生証などで行動管理（入退室管理など）や、自動でアルコールが噴霧される装置の導入
- ◎法政大学の対策として、行動履歴を各自でチェックして具合が悪い場合は提出して登校しないというような仕組みができています。自分の行動履歴をかけるシートを配布するだけでも意味があると思う。Web からダウンロードできるようにしている。

- ◎教員が個別に消毒できるように溶液などを教室に持ち出せるようになったが、非常勤の先生から、本学では「機材の消毒の徹底が足りてない」との意見があった。清掃業者に机などの消毒を委託できないか。サーモ体温計を各棟の入り口にすべて配置するなどできないか。
- ◎良かった点としては、全ての新生生に電話を個別にして面倒をみたことで迷子が出なかったことだと思う。D 棟に設置されている脇に挟む体温計よりもサーモ体温計の増設がほしい。
- ◎対面授業と遠隔授業（ハイブリッド授業）へ対応するカメラの準備などを大学でしてほしかった。今後もハイブリッド授業が続くようであれば、パッケージ化された機械・機材が大学から提供されるととてもよいと思う。
- ◎学生に対して保育園や幼稚園に実習に行く 2 週間前から健康チェックや誓約書提出で行動自覚を促し、受け入れ先の園からも、ほぼご理解をいただいている。しかし実習を断られる例もあり、実習先の確保に苦慮している。今後、もし陰性証明が出せるような状況になったら大学として速に対処検討をお願いしたい。

#### 留意点

- ➔ 大学経営会議は、他の機関（例：教務部）・部署（例：学科教員人事）から依頼された事項について審議・決定を下す機関、加えて学長から議案の提出もある。  
議題と審議内容のメモはある。
- ➔ コロナ対策室会議は、今まで（9月）テレビ電話会議、メールによる会議などの資料はある。
- ➔ 大学 HP で掲載されている新型コロナウイルスへの対応に関する決定事項
- ➔ 法人本部の新型コロナウイルス対策について  
(D 棟、E 棟への洗面台の新設、食堂等へのアクリル板設置、A 棟玄関にサーモ体温計設置)

#### 2020 年 11 月

##### 1 報告事項

(1) 2019 年度の答申、活動記録の回答シートの回収状況の確認

(2) 新型コロナウイルス感染症対策室からの回答

委員長より、前回の学科会議等にて学科等の要望事項について取りまとめをお願いした件について、対策室への提出を依頼した件について報告があった。

(3) 自己点検・評価委員会による江戸川大学における新型コロナウイルスに対する政策決定プロセスの検証

以前の委員会にて、政策決定プロセスのチェックの必要性について、意見が出ていたため、どのような方法にてチェックするかを検討してきた。コロナ対策室にて、活動状況について時系列で箇条書きにて対策室にてまとめたものを、本委員会へ提供いただくことについて副学長より了解を得ることが出来たので、提出された活動報告に従って、次回の委員会にて議論をしていきたいとの報告があった。

## 2 審議事項

### (1) 社会学部長とメディアコミュニケーション学部長からの回答シートの内容に関しての各委員からの意見や指摘

- ◎「コースナンバリング」については、社会学部には学科間のばらつきがあるように見えるが、メディア学部については統一感があるように見える。
- ◎一つの科目を例に、経営社会学科は新生に学力や意欲の高い層と低い層とが混在し、両者へのきめ細かな対応が難しい状況であるとの指摘があった。
- ◎今年度の入学試験に関して、「総合型選抜入試」では学科ごとに試験や課題などを出して受験生を選抜している。これにより、基礎学力不足の入学生が増えることは防いでいる傾向があると思う。今後、一般選抜入試の定員を増やすなどの検討は引き続き行うべき。
- ◎学科により、まだ成績評価基準が教員間で統一されていない実情が示され、適正化を図るための施策について強く進める必要がある点が指摘された。成績評価を厳格化するのであれば、ゼミなどを除き、標準偏差をチェックし相対評価を導入すべきではないかとの意見があった。

### (2) その他

発達障害学生等について、教職員へアンケートがあると聞いていると委員より報告があった。

## 2021年1月

### 1 報告事項

- (1) 2019年度の答申、活動記録の回答シートの回収状況の確認
- (2) 次期認証評価受審に対する認証評価対応WGの自己点検報告書作成に向けてのスケジュール

### 2 審議事項

- (1) 学長からの回答シートの内容に対する委員方から以下の意見や指摘があった。

(学長シート)

「大学運営」に関して

- ◎「人間陶冶」について開学以来との記載があるが、間違いなので修正した方がよい
- ◎「学長と教職員の意見交換の場」について、「計画中」、「対応中」の状況などを表す教職員へのメール等で通知があると、そのイメージしやすいのではないか。
- ◎経営重視で学生入学選抜を行うように読み取れる箇所がある。全学的な議論も進めて、勉強等に対して向上心の高い学生を少しずつでもレベルの取れるような方向を示してほしい。
- ◎「カリキュラムの改訂」や「コースナンバリング」などについて学長からの指示ではじめたことであるのでエビデンスとして残るように何らかの評価項目を設け、学長のリーダーシップとして記録を残した方がよい。
- ◎前回の認証評価では、各改訂について誰の指示かということを知られたのでしっかりしておくべき。

「大学における教育と研究の諸問題」に関して

- ◎研究環境については、例えば産学連携コーディネーターがいないなど、研究サポートの人的な不足を感じている点がある。
- ◎研究環境について、こどもコミュニケーション研究所には部屋もなにもない状況が続いている。
- ◎教育によって「教育効果（学校や学科全体の学力があがっている）」が出ていることを実証するのは難しい。（偏差値などは外部の評価によるものなので、）本学で、教育の質が上がっていることにより、学生の学力も向上してきているということを把握するための仕組みを考える必要がある。
- ◎学長からの指示は、学長室へ個別に教職員を呼んで指示しており、指示したことの記録が残っていない。委員会や教授会の中で報告するなど、指示したことの記録が残るような工夫が必要ではないか。
- ◎中期計画の進捗について、KPIを指標とすることで今後は進んでいく。

「学長のリーダーシップ」に関して

- ◎本来、カリキュラムポリシーに合致するような人事がなされるべきで、今回提出された回答の書き方では、人事がカリキュラムより先行していると読まれかねない。学長はカリキュラム改訂の指示をしているので、評価項目として追加すべき。
- ◎カリキュラム編成方針への指示というようなチェック項目を追加してはどうか。以上を踏まえて、委員長にて修正の上で学長へ示すこととなった。

(2) 江戸川大学におけるコロナ対策の検証

各委員で確認いただき次回の会議にて審議する予定とする。

## 2021年2月

### 1 報告事項

(1) 2019年度の答申、活動記録の回答シートの回収状況の確認

国際交流センター運営委員長へ回答修正の依頼

### 2 審議事項

(1) 江戸川大学におけるコロナ対策の検証

本学のコロナ対策全般について、大変しっかりしていただいている印象を受けた。各委員から以下の意見が出された。

- ◎来年度のどうするかという方針が今一つはっきりしていないように感じており、その点について説明がほしいと感じた。電極を頭に装着する必要があるような実習について次年度の対応について決めてほしいと感じた。シラバス作成のときに少々困ることになった。大学の前提としてどのように考えているかの説明がほしかった。
- ◎コロナ対策会議でいろんなことをやっていたことは活動記録をみてよくわかったが、一般の教員は知らないことが多い。一般の教員にも対策室でどのようなことをやっているかを知らせてほしい。対策室の活動履歴をコンパクトにまとめたものを教員へ公表したらどうか。例えば、web ページにある程度コロナ対策会議の活動まとまっているので、メンバーや会議の回数などのまとめでもいいのではないか。
- ◎卒業式の方針など、遅すぎると思った。後から変更になることは仕方ないが方針は早めに決めて通知すべきではないか。
- ◎アカデミック・スキル演習の成績から見て、オンライン授業だから成績が低い学生が増えるということはなかった。学生がオンラインでの課題についてどのように感じているのかの実態調査を実施してもらいたかった。
- ◎ハイブリッドは、教える側が対面と遠隔で受講している両方の学生に神経を使い大変だと感じた。初動については、もう少し早めの注意喚起や方針提示などができたのではないかとの思いはある。
- ◎手洗い場の増設など費用をかけて対策をしたことなどを、整理してわかりやすく開示してはどうか。
- ◎現代社会学科では、フィールドワーク研修については、来年に持ち越しすると、履修者が倍になることも想定されることから、今年、授業を工夫して実施した。引率してフィールドに出るやり方を、オンライン授業に加えて個人が調査計画を立てて、自宅の近くを調査させるなどの内容にして対応をした。
- ◎学生の中で卒業旅行の話題なども出ているようなので、学生への春休み中の注意喚起

は早めに実施してはどうか。また、録画したオンライン授業などに学生がチャット欄などで授業に無関係な言葉等を書いたものが残っているなどの話がある。オンライン授業の受講のマナーを学生へ周知してはどうか。

- ◎対面を強制するような授業の扱い方については、疑問があるので対応を考えほしい。
- ◎コロナ対策室においては、学生や保護者、教員などのアンケート意見などを踏まえて検討をしていただければと感じることは多かった。

これらの意見をまとめて、コロナ対策室長へできることは対応していただきたいと意見交換をしたいと発言があった。

## (2) その他

コロナ禍における授業に関して人間心理学科での学科所属学生へのアンケート結果（160名が自由参加）について報告があった。女子の方が新型コロナウイルス感染への不安が高いこと、保護者の方が学生よりも（通学も含め）対面授業に参加することでの感染リスクへの不安を持っていること、対面授業の実施に関して積極的な希望は数としては少なく、オンラインやむなしとの意見が多いことが示された。